

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 4 月 18 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870103821		
法人名	医療法人 河原医院		
事業所名	グループホーム 里の家		
所在地	愛媛県松山市今在家3-9-29 (電話) 089-905-8188		
管理者	岡本 末子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 2 月 13 日	評価確定日	平成 20 年 4 月 21 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 1 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 16 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 22 人, 非常勤 人, 常勤換算	22 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	14,100 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 1 月 10 日事業所記入)

利用者人数	27 名	男性 9 名	女性 18 名
要介護 1	8 名	要介護 2	7 名
要介護 3	5 名	要介護 4	5 名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢	平均 83.6 歳	最低 64 歳	最高 97 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園と住宅、商業地の混在する静かな地域にある大きな3階建ての建物の3階にホームがあり、1・2階には居宅系の各種サービスと介護老人保健施設がある。母体は医療法人であり、各種福祉サービスを利用しながら高齢者が地域の中で生活できる体制整備に尽力している。ホームは5年目を迎え、運営者、管理者、職員はそれぞれの立場で利用者を医療と介護の両面で支援しており、日々の暮らしは落ち着いている。ホームはリハビリテーションと健康管理に特に力を入れている。廊下は広く、リビングもゆったりしていて、利用者が動きやすいスペースがあり、

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

利用者の意思及び家族の意向・職員の意見を出し合う、衛生面からトイレのタオルを個人別で使用するものとする、など前回評価を受けての改善点について全職員で取り組んでいる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

評価の全項目を職員全員に配布し、自己評価を個人で記入している。各ユニット長が各職員の自己評価を取りまとめ、管理者が見直している。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

ホームの現状報告や、地域や行政との情報交換をしている。時には各ユニットに参加者を招き入れ、茶話会を催すことで会議に変えることも行い、和やかな雰囲気の中で意見交換が行なわれている。参加者からホームの行事で参考になるヒントをいただくこともある。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族の面会時には、職員や管理者は積極的に声をかけ、意向等をうかがっている。介護計画を作成する時には利用者・家族から意見を聞いている。苦情や相談の窓口はホーム内と外部に分けて明示し、家族にも説明している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

運営推進会議を開始して、地域の祭りや文化祭、老人会など地域からの声かけが増え、ホーム主催の夏祭りには地域の方々に来てもらい、行事を通じての相互交流はできている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム里の家

(ユニット名) たんぽぽ

記入者(管理者)
氏名 岡本 末子

評価完了日 平成 20 年 1 月 7 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 事業所独自の理念を作り掲示している。 (外部評価) ホームは運営理念に「地域社会への奉仕と貢献」を掲げ、地域社会とのつながりを大切にしている。その他、全職員で考えたわかりやすい介護理念と行動指針を日々の介護に役立てている。	※	地区やホーム主催の行事で地域の人々との交流は活発に行われている。介護理念と行動指針は2年前に作られたもので、職員に十分浸透している。さらに地域に根ざしたホームとなるため、地域とのかかわり方を具体化した理念作りを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 朝の申し送り時に理念の復唱を行い、日々理念の実現に取り組んでいる。 (外部評価) 理念を廊下、事務所などにはっきりと掲示し、訪問者や職員が意識しやすい。朝の申し送りでも話し合っている。日頃のケアの実践に当たって理念を意識して笑顔や優しさを大事にしている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族の目につく所に掲示できている。運営推進会議の中でも理解して頂ける様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 行事への参加の呼びかけ行っており、グループホームの行事や地域の行事に参加して交流を図っている。日々のあひさつも行っている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 夏祭り、バザー、地方祭等、地域活動に参加し、地元の人々と交流している。 (外部評価) 自治会には入っていないが毎月広報は配られ、そこから地域の情報を得ている。町内の祭りには厨房を提供してバザーのお菓子を作ったり、利用者の書道作品などを出品している。ホームの祭りには町内の人が敷地内で誘導のボランティアをするなど、相互の協力体制ができています。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の場で勉強会への参加、介護教室等声かけしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価を活かして改善できるよう努めている。 (外部評価) 前回の外部評価結果を受けて改善に取り組み、ケアの質の向上に努めている。職員は一人ひとり自己評価をシートに記入し、管理者がまとめている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を行っており、いい意見交換の場になっている。 (外部評価) 運営推進会議ではホームの現状や行事の連絡・報告をしている。また、外部評価結果も議題として提出している。地域の方から文化祭の出し物で利用者が楽しめるような踊りのヒントをいただき、職員が練習して発表したところ大変好評であった。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 事業所としている様々な研修の場等で顔を合わせ相談にのってもらっている。 (外部評価) 市担当者から、行政だけでなく医療機関の情報提供もしてもらっている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を開いている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉使い等注意し、人生の先輩である事を考えて行動しており、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 本人・家族の希望はもちろん、今までの生活や対人関係も聞き、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の不満、意見、苦情を管理者や職員で話し合い、解決するように努めている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月、便りを発行して1ヶ月の生活の様子を書いて家族に送っている。体調が悪い時等、変わった様子があればその都度連絡を取っている。金銭管理は、出納帳のコピーを家族に送付している。 <hr/> (外部評価) 「ホーム便り」を請求書や金銭出納帳のコピーと共に面会の時や郵送で月1回届けている。便りには利用者の担当者から健康状態の報告や、メッセージが添えられている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の意見、不満、苦情を管理者や職員で話し合い、解決するように努めている。家族会等も持ち意見を聞いている。 <hr/> (外部評価) 年1回の家族会議や、介護計画立案時、面会時や電話で意見を聞いている。外部評価後に職員で話し合い、家族からの要望も取り入れて改善方法を検討している。家族からの意見は各ユニットの連絡ノートに記しており、職員は情報を共有している。ホーム内外の苦情相談窓口を明示している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のユニット会や主任会等で話す機会を設けている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 状況の変化に応じて勤務の調整に努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) ダメージがないように異動は必要最小限に抑える努力をしている。 (外部評価) 運営法人の各事業所間での異動は最小限に行なわれている。重複勤務等の工夫によって異動による利用者のダメージを少なくするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の勉強会に参加できている。 (外部評価) 管理者・職員は外部研修を受講した際には報告書を作成し、他の職員にも伝達している。月に1回、同系列の事業所の専門職員による内部研修を行ったり、外部研修の伝達をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 同業者との交流は実施していない。 (外部評価) 同一法人内のホームから職員が来て、見学や情報交換を行っている。管理者は他ホームの管理者と研修などで出会った際に情報を得ている。しかし職員レベルでの他ホームとの交流を通じた向上の機会は少ない。	※	まずは同一法人内のホームとの交流を深めて、更なる質の向上を目指す手がかりとして検討することを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 実施していない。職員相互の親睦はほとんどない。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) いろいろな度毎に声かけして、前向きに仕事ができる様努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人自身からよく聴く機会をつくり受け止める努力をしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族の希望をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) まず、必要としている支援を見極め対応に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 徐々に馴染めるような工夫をしている。利用者にサービス内容を話し、本人が希望すれば実施する。 (外部評価) 病院から入居の場合、医師等とも連絡を取り合っている。自宅から入居の場合はケアマネジャーと相談し、見学も随時受け入れている。運営法人の居宅系の各サービスや介護老人保健施設からの入居の場合は職員とも顔なじみであり、利用者もホームに馴染みやすい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員と本人と一緒に過ごしながら、本人から学ぶ事や会話する事で喜怒哀楽を共にできている。 (外部評価) 職員は利用者の育った環境や暮らしぶり、方言、町の様子等を教えてもらうことが多く、共に季節の飾りを手作りするなど楽しんでいる。職員は、利用者としてしっかり対面して話すよう心がけており、一人ひとりの考え方や生き方に学ぶところが多いと感じている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者の家族と連絡を密にして利用者を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築くよう支援している。会いに来られたり、一緒に出かけたりする機会も多くある。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会も外出も自由に出来るので、他者との交流機会も多くある。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士が関わり合い一人で孤立せず、皆と会話されている。何かトラブルがあれば、職員が間に入っている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 会いに来られる方もおり、付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) カンファレンスや日々の声かけ時、本人の希望を聴き意向の把握に努めている。入居者一人一人に合った対応を心がけている。 (外部評価) 利用者からイベントやおやつ作りなど楽しかった行事へのリクエストの申し出が多く、職員は意向に沿うよう努めている。職員は朝・夕に居室を訪れ、利用者の思いの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴や生活環境等以前の様子が把握できるように努めている。家族から聞いたり、情報を収集して得意な事等(料理や針仕事)して頂く。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一人一人の1日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握している。職員が見守り声かけ行い、変わった事があれば、本人の言葉や行動を記録に残し、職員が把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 3ヵ月に1回カンファレンス行い、家族、本人に参加して頂き、希望、要望を聞き、意見を出し合い課題を明らかにし、介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者ごとに担当職員を決めている。介護計画は利用者・家族・管理者・職員が出席した席で計画を立てている。状態の安定している利用者には趣味のプランを多くしている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月に1回、カンファレンスを実施して介護計画の期間におうじて見直しを行い、状態変化に応じたカンファレンスを実施している。一人一人課題を明確に行い、意見・要望も組み入れ、現状に即した新たな計画を作成している。 (外部評価) 介護計画の評価は週1回及び1か月に1回行っている。状態が変化した場合はその都度見直している。その際には家族等とも相談している。状態が変化しなくても3か月ごとに見直している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々介護計画チェックや変わった事があれば個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 要望に応じて話し合い出来ている。 (外部評価) 受診は緊急の場合は職員が付き添う。家族からはリハビリテーションの希望が多く、広いホーム内や、多種類のリハビリ器具を用いて、職員や作業療法士らが対応している。希望により居室での家族等の宿泊も可能となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 行事の時、ボランティアに来て頂いたり、消防訓練を行ったり協力しながら支援している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の要望があれば、前向きに他のサービス事業者とも連絡を取っている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に出席して頂いて連絡・相談を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居者、家族の判断で医療機関を選択され納得が得られるように医療機関と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 (外部評価) かかりつけ医以外にも、運営法人医療機関の往診や介護老人保健施設の看護師らの協力により、医療面の支援が行われている。受診結果は家族に電話等で連絡し、個人ファイルの受診結果報告書に記入している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 相談できる医療機関や協力病院の確保できている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価)		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 2階に併設する老健の看護師に急変時等連絡して対応している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合、家族と終末期のあり方について話し合い、家族や本人が望むよう医療機関と話し合い、職員全員で方針の共有している。 (外部評価) 入居時に重度化や終末期の看取りについて説明している。介護計画を立てる際にも家族の意向等を確認しながらケアにあたっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) かかりつけ医と共にチームとしての支援に取り組んでいる。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 家族の希望に沿って、保健・医療・福祉の関係者と共に十分な情報交換を実施している。		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 介護を行っていく上で大切な事であり、入居者一人一人にあった対応を心がけている。 (外部評価) 職員はケアにあたる際には「失礼します」と告げ、利用者は「ありがとう」と答えている。穏やかに接する中に年長者を敬う姿勢が見られる。書類等は各ユニットの事務室で適切に保管している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人の思いや希望を表せるように働きかけたり、本人のペースに合わせて暮らせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースに合わせて生活できるように心がけているが現状では全ては難しい。業務に追われ希望に沿っていない所もある。 (外部評価) 外出やリハビリテーションの希望にすぐ対応できない場合は待つていただくこともあるが、職員は利用者一人ひとりの思いに耳を傾け、できる限り要望に沿えるよう努めている。		・業務内容が多い。 ・職員間のコミュニケーション不足。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 施設内に理容は月1回、美容は2ヶ月に1回来てくれる体制があり、カット・パーマ・毛染め等できている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は主食と汁物のみユニットで作成、他は施設で一括調理した物である。職員と利用者が同じ食事を共に楽しむ体制ではない。利用者に材料を切ってもらったり、食器を拭いてもらったり、準備や片付けは一緒にできている。 (外部評価) 職員は食事介助に集中したいとの思いから利用者と一緒に食事をしていないが、準備や片付けは利用者と共にやっている。各ユニットでご飯と汁物は作っているが、他の副食は同じ建物内で一括調理したものが届けられる。月に一度、共に食事やおやつを作る日を設けて利用者に喜ばれている。		職員と利用者が一緒に準備して食事できるように機会を増やしていきたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 一人一人の嗜好を把握して日常的に楽しめるよう支援している。(おやつの際は、飲みたい物を聞き、お酒も行事の時等希望があれば飲んでもらっている。煙草等楽しまれている。)		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握して、トイレの声かけ・見守り等を行い、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 一般浴と機械浴の曜日が決まっており、一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴できていない。 (外部評価) 各ユニットごとに広い脱衣所と浴室がある。利用する曜日や時間帯はほぼ決まっている。シャワー浴や機械浴を利用した入浴や、特殊浴槽を利用した居室での入浴にも対応が可能となっている。		難しい事だが、一人一人に入浴したい曜日や時間帯を聞いていく。につ
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、出来るだけ居間で過ごせるよう支援している。煙草で一服してもらったり、夜眠れない利用者には飲み物を勧めたり、話しをしている。しんどそうにされていたら声かけし休んでももらったり、自分で休息してりできている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 食器拭き、洗濯物たたみ、おしぼり巻き等利用者の能力に合わせた役割を楽しんでいる。月に1度、夕食作りおやつ作り等手伝って頂いている。 (外部評価) 洗濯物たたみや食器拭きなど日常の生活でできることをすることが利用者の楽しみになっている。利用者の作ったカレンダーや習字、折鶴などを文化祭で展示したり居室に飾っている。人に見てもらおう楽しさを利用者にも味わってもらおうことが、制作の励みにもなっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 預り金としてユニットで預かり必要に応じて使えるよう実施されている。買い物に行きたい時、職員と一緒に رفتり、月に1回移動パン屋が来て、自分で買って頂き楽しみを味わっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 一人一人その日の希望に沿って外出したり、庭を散歩されたりしている。庭の花を摘みに行かれたり、芋ほりやいちじくを採って楽しまれている。日光浴、気分転換に外出している。 (外部評価) 買い物の希望は多く、スーパーやコンビニ、ホーム近くの無人野菜売り場などで買い物を楽しんでいる。建物を一周するベランダや敷地内の庭を利用し、気軽な外出や散歩も行っている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 行きたい所等の希望を聞き、ドライブや季節の花を見に計画を立て外出している。お花見などはご家族も参加できるように声かけしている。月に1、2回ご家族と外出される方もおられる。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族に電話したいと希望されたら、やり取りが出来るように支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも気軽に訪問できるようになっており、談話室もある。職員は、ご家族が訪問し易いように気軽に声かけをして雰囲気作りに心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について理解しており、拘束しないケアに取り組んでいる。昼夜頻回に見守り行っており、拘束する必要はありません。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室や玄関は鍵をかけずに開放的にしている。 (外部評価) 現在、ホームの玄関になるエレベーターにロックがかかっているが、建物の設備上、ホーム入口だけ開錠することは不可能である。しかし、開錠の仕方は利用者に伝えており、自由に出入りできる状態である。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 視野を広げ状況を把握できるよう常に心がけている。訪室、見守り、声かけ頻回に行っている。他のユニットにも理解してもらい全職員で声かけ、見守りを行う。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物は目の届かない所に保管・管理している。薬は事務所のロッカーに置き、包丁は戸棚の奥、洗剤などは脱衣所のダンボールの中と決めて保管している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故報告書やヒヤリハットを作成して再発防止の為、話し合い伝達も行っている。見守り、声かけ行っている。薬は職員が確認・管理行っている。煙草はホールにて吸っていただく。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変時や事故発生時は、すぐに2階看護師に連絡・報告している。		万一に備えて訓練を定期的に行っていきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回消防訓練を行っている。運営推進会議を持ち地域の方々と連携が取れる様に努力している。 (外部評価) 3階建て施設の各階ごとに防火管理者の資格を有する職員がいる。年2回地元の消防署と共に昼・夜想定での訓練を併設施設と合同で行っている。運営推進会議でも地域の方々と防災について話し合っている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 起こり得るリスクについて説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 身体状態の変化や異常時の早期発見が出来るように努めている。異変があればすぐに看護師に報告している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 主治医の指示通り服薬介助行えている。完璧ではないが、ほぼ理解している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 服薬調整、水分補給等にて調節できている。便秘傾向の人には、センナ茶を飲んで頂いている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 声かけを行い、歯磨き、義歯の手入れ、うがい等実施できている。自分で出来ない人には介助を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 併設施設の管理栄養士が献立を立て食事を作っている。一人一人の水分量や食事摂取量を毎日チェックし、把握できている。その時の状態に応じて支援している。 (外部評価) 管理栄養士が献立をたてている。食事及び水分摂取量は1日の生活記録に書き、個人ファイルに転記している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染予防の基本である手洗い、うがいを励行している。手すり等消毒している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板、布巾、急須などの調理用具は毎日消毒し、衛生管理を行っている。食材についても、新鮮で安全な食材を使用している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りには、季節感のある飾り付けをして四季を感じた工夫ができています。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間は、広くゆったりしており居間にはソファを置き、季節感を取り入れた展示物、生け花を飾っている。 (外部評価) ホーム内は明るく清潔感があり、利用者はゆったりと過ごしている。職員と利用者が手作りした季節の飾りや、趣味の習字・絵・折鶴などの作品を置き、温かみを感じられる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間にはソファや食卓用の椅子があり利用者が自由に過ごせる空間作りをしている。ソファに座られテレビを観られたり、談笑されている。談話コーナーは、日当たりも良く日光浴もできる。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家具類の持ち込みは自由な為、使い慣れた家具や生活用品等を持ち込み安心して暮らせる場所になっている。 (外部評価) 居室は広く、洗面台も付いている。利用者は思い思いの品を持ち込んでいる。のれんや花、いすやクッションなどで彩りを加え、家族や職員と共に自分らしい部屋を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 適度な換気を行っている。室内の温度調整はエアコンで行い、居室に加湿器を設置している所もある。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 広い空間なので車椅子移動がしやすい。廊下やトイレ、浴室等は手すりをつけて転倒を防止している。浴槽には、滑り止めマットを敷き高さがあるので足踏み台を置く。居室の鏡の高さを直したり、トイレもウォシュレットの一部リフォームしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 自分の部屋が分かるように氏名を書いている為、混乱は見られていない。一人一人役割を持ってもらい、自立して暮らせるよう支援している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダを散歩できるプランターに野菜の苗を植えて野菜が出来るのを楽しんだり、干し柿をベランダにつるして活用している。建物内にあづまやや畑があり自然に親しむ事ができる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	すべての意向は掴めていない。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	職員は業務に追われている為、利用者と一緒にゆったりと過ごす事が少ない。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ご自分のペースで生活出来ている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	「いつもありがとう。」と言って下さる。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ご家族から「外出は控えて欲しい。」と言われる方もある。利用者が買い物等外出したいと言われる時があるが、なかなか実行できていない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	主治医との連携が取れている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望に出来るだけ対応している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	何かがあれば報告しており、信頼関係が築けている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	行事の時、ボランティアで地域の人々が訪ねてくれる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	行事の時、お互いに呼びかけし、協力できている。
98	職員は、活き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③ 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	遠慮している部分がある。言いたい事が言えていない。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の対応に満足していない方もいる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	すべては満足していない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・行動指針でもある優しい声かけ、思いやりを忘れず、利用者の笑顔が見られるように日々取り組んでいる。
- ・夏祭りや運動会、文化祭等行事を楽しんでもらえるように前々から準備をし、力を入れている。「ありがとう。楽しかったよ。」と言ってもらえるように頑張っている。
- ・季節毎の環境作りにも力を入れ、季節感を感じられるように色々と作品を作り展示もしている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム里の家

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)
氏名 岡本 末子

評価完了日 平成 20 年 1 月 7 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 独自とはいかないまでも、行事等への参加、こちらの行事への地域への呼びかけを行い、地域との密着はできている。 理念としては、職員が話し合い作り上げた。 (外部評価) ホームは運営理念に「地域社会への奉仕と貢献」を掲げ、地域社会とのつながりを大切にしている。その他、全職員で考えたわかりやすい介護理念と行動指針を日々の介護に役立てている。	※	地域への行事参加の呼びかけ、こちらからの地域行事の参加をより行っていきたい。 地区やホーム主催の行事で地域の人々との交流は活発に行われている。介護理念と行動指針は2年前に作られたもので、職員に十分浸透している。さらに地域に根ざしたホームとなるため、地域とのかかわり方を具体化した理念作りを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 朝礼時に復唱行い、理念に向けて取り組んでいる。 (外部評価) 理念を廊下、事務所などにはっきりと掲示し、訪問者や職員が意識しやすい。朝の申し送りでも話し合っている。日頃のケアの実践に当たって理念を意識して笑顔や優しさを大事にしている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 理念を事務所前に貼り出し提示している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 通りすがりの方々とのあいさつ程度の付き合いのみ。会う機会がなく、ほとんど付き合い出来ていない。		周辺の方とあいさつがよりかわせる様、地域行事への積極的な参加がしたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会への参加はしていない。地域活動への参加は、運営推進会議にて教えて頂き、入居者と共に参加している。 (外部評価) 自治会には入っていないが毎月広報は配られ、そこから地域の情報を得ている。町内の祭りには厨房を提供してバザーのお菓子を作ったり、利用者の書道作品などを出品している。ホームの祭りには町内の方が敷地内で誘導のボランティアをするなど、相互の協力体制ができています。		老人会への参加等、地域により密着出来る様努めたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 課題、議題に挙がる事が多いが、実現に至らず行えていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) まとめた物が、ユニット内に置かれており、自己反省している職員もいるが、分からない職員もあり、意志統一できていない。 (外部評価) 前回の外部評価結果を受けて改善に取り組み、ケアの質の向上に努めている。職員は一人ひとり自己評価をシートに記入し、管理者がまとめている。		話し合い、反省、会議が必要。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ユニット長以外の職員には会議内容が浸透していない。会議としては、行事の予定を聞く、又は話し合いの要素が強く、サービスの向上は、新たな行事の企画という意味においてのみある状態。 (外部評価) 運営推進会議ではホームの現状や行事の連絡・報告をしている。また、外部評価結果も議題として提出している。地域の方から文化祭の出し物で利用者が楽しめそうな踊りのヒントをいただき、職員が練習して発表したところ大変好評であった。		全職員への会議内容の報告。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市の介護保険課の方に運営推進会議に参加して頂き、意見を頂いている。 (外部評価) 市担当者から、行政だけでなく医療機関の情報提供もしてもらっている。		受けた指導、助言を的確に実行する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を行ったが、全員の参加できておらず、活用に至っていない。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 防止に努めているが、学んでいない職員が多く、配布資料に目を通しただけとなっている。		勉強会等、学ぶ機会を作りたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 大切な事は、入居者、ご家族に聴き、説明も行っている。(ヨーグルト、新聞等)		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日常的に入居者には、その都度聴き、対応している。上にも速やかに報告出来ている。		外部に表せるには至っておらず、工夫が必要。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月1回定期的に便り送付し、近況報告している。金銭出納帳のコピーも送付している。 (外部評価) 「ホーム便り」を請求書や金銭出納帳のコピーと共に面会の時や郵送で月1回届けている。便りには利用者の担当者から健康状態の報告や、メッセージが添えられている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) その都度、意見・苦情の対応している。管理者より、苦情があった際は各部署に伝えられ、悪い所を改善していくよう努めている。又、年に1回家族会行っている。 (外部評価) 年1回の家族会議や、介護計画立案時、面会時や電話で意見を聞いている。外部評価後に職員で話し合い、家族からの要望も取り入れて改善方法を検討している。家族からの意見は各ユニットの連絡ノートに記しており、職員は情報を共有している。ホーム内外の苦情相談窓口を明示している。		参加出来ない家族の為に意見を言える機会を作っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のユニット会と入居者カンファレンスの際に話す機会を設けている。		個別に話し合える時間を作って欲しい。 意見箱の設置をしていきたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 行事等は、いつもより1名増員する場合があるが、入居者や家族の状況の変化、要望には対応できていない。		ユニットを越えた急な変更への対応をしていく。 ユニット会をつくる意味をより入居者が良い方向へ向かうように話し合いをしていく。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 特別な動揺はないようであるが、直前まで知らされて無い事に不安、不満をよく聴く。 (外部評価) 運営法人の各事業所間での異動は最小限に行なわれている。重複勤務等の工夫によって異動による利用者のダメージを少なくするよう配慮している。		早く馴染めるような他職員への配慮。 アフターケアが出来る職員の確保。 異動を少なくする。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ユニット長は研修に参加し、新職員は新人研修を受けている。 (外部評価) 管理者・職員は外部研修を受講した際には報告書を作成し、他の職員にも伝達している。月に1回、同系列の事業所の専門職員による内部研修を行ったり、外部研修の伝達をしている。		勉強会を続けていき、中堅職員の研修に参加できるようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修、勉強会に参加している職員もいるが、一部である。		※	全職員が満遍なく参加して行きたい。時々外部より招く勉強会があり、続けていきたい。
			(外部評価) 同一法人内のホームから職員が来て、見学や情報交換を行っている。管理者は他ホームの管理者と研修などで会った際に情報を得ている。しかし職員レベルでの他ホームとの交流を通じた向上の機会は少ない。			まずは同一法人内のホームとの交流を深めて、更なる質の向上を目指す手がかりとして検討することを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 特にはしていないが、忘年会等交流ある。普段より、何でも言い合える環境を作っている。		皆が話し易い環境を作っていく。	
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 個々人にて頑張っているが、各自の向上心にはバラつきがある。		勉強会への参加を徹底する。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) その都度聞いているが、昼間は時間が無く、夜によく聞いている。		余裕を持って傾聴し、こちらからの声かけに努めていく。	
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会によく来られる家族にはよく聞いているが、余り来られない家族には聞く機会が少ない。		家族の都合のいい日にカンファレンスへ参加してもらおう。	

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 見学された時、ユニット内の説明をし、他のサービスの説明も行っている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) カンファレンス時に入居者、家族、職員にてサービスを提供している。家族の事情により、いつも徐々には出来ていない。 (外部評価) 病院から入居の場合、医師等とも連絡を取り合っている。自宅から入居の場合はケアマネジャーと相談し、見学も随時受け入れている。運営法人の居宅系の各サービスや介護老人保健施設からの入居の場合は職員とも顔なじみであり、利用者もホームに馴染みやすい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 流れ作業となるのを極力防ぎ、自身の親のように思うようなケアを行っている。普段は勿論、夕食作り、おやつ作り等において一緒に物作りし共有している。 (外部評価) 職員は利用者の育った環境や暮らしぶり、方言、町の様子等を教えてもらうことが多く、共に季節の飾りを手作りするなどでも楽しんでいる。職員は、利用者としてしっかり対面して話すよう心がけており、一人ひとりの考え方や生き方に学ぶところが多いと感じている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) よく来所されるご家族とは、お話ししたり、要望を伺って一緒に本人を交えて、交流図れているが、なかなか自分からご家族と話ができない職員もいる。滅多に来所されないご家族との関係が難しい。		ご家族とお話する場があまりなく、入居者の普段の様子を伝えたいと思うが、伝えられない事も多々ある。会う頻度の増加を図りたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人、家族ともお話を聞き、より良い関係に向けた支援をしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの場へすぐ行く等の対応はなかなか難しい現状ではあるが、その人の話、馴染みの場の話を聞き、外出の計画の参考にしている。		本人の希望を現実に近づける様に、こちらから外への関係継続を支援したい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 声かけをし、レクリエーション等行い、入居者同士と一緒に協力し合える様努めている。又、トラブル時には職員が中に入り、話しを聞く等行い、アフターケアと次のトラブル回避に努めている。		よりレクリエーションを行っていきたい。 孤立がちな方には、より職員が中に入り、取り持ちたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所した方との関わりは、現場レベルでは難しい。こちらに来られた際には、お話をさせて頂いている。		退所されても気軽に来られるような雰囲気作りをしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 主にカンファレンスにて本人の要望、希望を聞き、プランや業務に生かしている。ただ、本人のペースより早くやってしまう事が多い。 (外部評価) 利用者からイベントやおやつ作りなど楽しかった行事へのリクエストの申し出が多く、職員は意向に沿うよう努めている。職員は朝・夕に居室を訪れ、利用者の思いの把握に努めている。		希望通りにいかない事もあり、その際の本人本位が、より努力が必要。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フェースシートや介護サマリーにて確認している。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 数種類ある記録を見て努めてはいるが、把握はまだまだである。		より個人個人を見ていきながら、記録の記載を細かくする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 概ね3ヶ月に1回カンファレンス開催し、本人・家族を交え要望、希望を聞くようにしている。カンファレンスに参加出来ないご家族には、電話にて確認するようにしている。 <hr/> (外部評価) 利用者ごとに担当職員を決めている。介護計画は利用者・家族・管理者・職員が出席した席で計画を立てている。状態の安定している利用者には趣味のプランを多くしている。		家族の参加を増やす為の配慮。周囲の職員の意見をより出していく。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 期間に伴う見直しとは別に急を要する場合には、速やかにカンファレンスを聞き、対応している。 <hr/> (外部評価) 介護計画の評価は週1回及び1か月に1回行っている。状態が変化した場合はその都度見直している。その際には家族等とも相談している。状態が変化しなくても3か月ごとに見直している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 各種記録にてカンファレンス時に見直しに生かしているが、記録が曖昧であり、新たな問題点が見出せにくい。		日中の様子をもう少し詳しく、細かい記録とる必要がある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) リハビリ希望の方には、施設内のOTに相談している。 (外部評価) 受診は緊急の場合は職員が付き添う。家族からはリハビリテーションの希望が多く、広いホーム内や、多種類のリハビリ機具を用いて、職員や作業療法士らが対応している。希望により居室での家族等の宿泊も可能となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 消防訓練、年中行事等に参加している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の意向があれば、希望する病院や他のサービス事業者と連絡を取っている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 今までの所、本人からの意向や必要性は出していない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医以外でも、本人の希望があれば、受診できている。 (外部評価) かかりつけ医以外にも、運営法人医療機関の往診や介護老人保健施設の看護師らの協力により、医療面の支援が行われている。受診結果は家族に電話等で連絡し、個人ファイルの受診結果報告書に記入している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 定期的を受診できている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師との連携できており、何かあった時には、すぐに対応できている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) お見舞いに行き、状況を把握して病院関係者と情報交換や相談をしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化する前にカンファレンスを行い、早めに家族の意向を聞いている。 (外部評価) 入居時に重度化や終末期の看取りについて説明している。介護計画を立てる際にも家族の意向等を確認しながらケアにあたっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) レベル低下してきた時、家族と相談しながら、医療との連携を取れるように出来ている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 十分な話し合い、情報交換にて本人が入所した際に、すぐに対応できるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 理念にも設定し、防止に努めている。記録については、取り扱いに気をつけている。 (外部評価) 職員はケアにあたる際には「失礼します」と告げ、利用者は「ありがとう」と答えている。穏やかに接する中に年長者を敬う姿勢が見られる。書類等は各ユニットの事務室で適切に保管している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 全ての希望が叶えられてはいないが、出来る限りの思い、要望をその都度聞き、又カンファレンスでも聞いている。		全てとはいかないが、希望を第一に支え、本人に納得して頂けるよう努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者のペースに合わせられない場合も多く、特に外出の希望は急には対応出来ていないが、朝食は、希望に沿えている。 (外部評価) 外出やリハビリテーションの希望にすぐ対応できない場合は待つていただくこともあるが、職員は利用者一人ひとりの思いに耳を傾け、できる限り要望に沿えるよう努めている。		職員数を増加したい。 好きな時に好きな事が出来る環境を整えたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 毎日同じ服を着てもらうのではなく、色々な服を着て頂いている。望まれる人には、望まれる人には、店での整容もある。施設としては、月1回理容、2ヶ月に1回美容が来てくれ、対応して頂いている。		希望した日に対応できるようにしたい。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みに合うようにはしているが、味付けは全員一緒。好みにて醤油等の対応をしている。片付けは、食器拭きをして下さっているが、他の入居者が嫌がられ、なかなか機会がない。 (外部評価) 職員は食事介助に集中したいとの思いから利用者と一緒に食事をしていないが、準備や片付けは利用者と共にやっている。各ユニットでご飯と汁物は作っているが、他の副食は同じ建物内で一括調理したものが届けられる。月に一度、共に食事やおやつを作る日を設けて利用者に喜ばれている。		一緒に食事を作る機会を多くしたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 訴えによりその都度対応している。健康に害する場合、控えて頂いている。行事の時のみと言う場合も多く、日常的には行っていない。		健康の事もあり、健康を害さない範囲で行っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) その人、その人に合ったトイレの声かけ、誘導行っている。失敗を極力なくし、ご家族の負担を少なくする様努めている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 曜日毎の午前中のケアになっている。一人一人のタイミングにて入浴は出来ておらず、対応していない。 (外部評価) 各ユニットごとに広い脱衣所と浴室がある。利用する曜日や時間帯はほぼ決まっている。シャワー浴や機械浴を利用した入浴や、特殊浴槽を利用した居室での入浴にも対応が可能となっている。		一人一人の希望に沿う事が望ましい。入浴順は、平等になるように順番を決めている。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) いつ休む、いつ起きる等、本人の希望に沿っている。意志決定の難しい人には、状態に合わせて、休んで頂いている。		職員の都合で早めに着替えをしている時があり、気をつける。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 出来ている時、いない時があり、毎日とかはいかない。レクリエーション、行事には参加され、楽しまれているが、一人一人の支援はいつも出来ていない。 (外部評価) 洗濯物たたみや食器拭きなど日常の生活でできることをすることが利用者の楽しみになっている。利用者の作ったカレンダーや習字、折鶴などを文化祭で展示したり居室に飾っている。人に見てもらおう楽しさを利用者に味わってもらおうことが、制作の励みにもなっている。		もっと自由にしたい事ができるようにしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自身で管理できている方は、管理して頂いているが、基本的にはこちらで預かっている。希望に応じ使えるようにしている。		「なくなった。」との声があり、周りの入居者の不安を増す事があり、預かるようにしている。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 3階にあるという構造上、室内にて自由に過ごしては頂いているが、戸外へは中庭に行く程度。近所への外出もあまりない。 (外部評価) 買い物希望は多く、スーパーやコンビニ、ホーム近くの無人野菜売り場などで買い物を楽しんでいる。建物を一周するベランダや敷地内の庭を利用し、気軽な外出や散歩も行っている。		外出計画をよりもっと立てるようにしたい。現状においては、一人一人のその日の希望に沿うのは難しく、回数を増やして対応していく。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 外出行事としては、数ヶ月に1回は行っている。家族との外出は任せている。		外出する機会を増やし、月1回からの外出計画を作成していく。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話については、本人が望めば職員の手が空き次第対応している。手紙については、毎月便りに近況を書き送っている。		施設内（3階）に公衆電話を設置して欲しい。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも訪問でき、来所の際には椅子、お茶等提供させて頂き、長く面会出来るよう環境を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。しないケアに取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室には鍵がなく、行えているが、施設構造上（3階）危険度の高い場には、施錠させて頂いている。 (外部評価) 現在、ホームの玄関になるエレベーターにロックがかかっているが、建物の設備上、ホーム入口だけ開錠することは不可能である。しかし、開錠の仕方は利用者に伝えており、自由に入出入りできる状態である。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 所在確認、様子伺えており、徘徊される方は、他のユニットと連携し所在確認している。		配慮しているが、より強化していきたい。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人一人の状態、状況に応じ、必要な物は管理している。		針・カミソリ等の刃物は、状況によっては、職員の管理とし、使用する時に手渡している。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 勉強会にて知識を学び実践に活かしている。		より一層の注意に努めていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的な訓練は災害時のみ行っている。事故発生時のマニュアルは、事務所内に貼り出し急変時に対応している。		マニュアル通りに動けるよう実技的な訓練をしていきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的な訓練行っている。 (外部評価) 3階建て施設の各階ごとに防火管理者の資格を有する職員がいる。年2回地元の消防署と共に昼・夜想定訓練を併設施設と合同で行っている。運営推進会議でも地域の方々と防災について話し合っている。		地域協力が得られるように、日頃から交流を持っていきたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入所前後に、一通りの説明行っており、家族の方ともお話しさせて頂いている。		自分の担当の家族とより話し合っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝のバイタル測定を行い、その時以外でも異変時は速やか看護師に連絡し見て頂き、主治医の指示を頂き医療連携をとっている。情報は、朝・夕の申し送りにて共有している。		伝達ミスのないよう、報告・連絡に努めたい。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 新しく処方された薬の理解や副作用についての理解が不足している。		新しく処方された薬の理解や副作用を全職員が理解できるように努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表にて便秘を把握し、水分の声かけ、確認、運動の声かけ、下剤の調節、医師との連携にて対応している。		運動の声かけが余り出来ておらず、徹底を図りたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 出来ない方のケア行っている。出来る方はフローアールや居室にてされている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量は、毎日計算しており気をつけている。食事形態も個人に合わせ、栄養を摂って頂いている。摂取困難な方には、代替品にて対応し補っている。 (外部評価) 管理栄養士が献立をたてている。食事及び水分摂取量は1日の生活記録に書き、個人ファイルに転記している。		さらなる徹底を図りたい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 職員は、一ケア毎の手洗い、消毒を行い、手すりの消毒も実施している。 入居者には、トイレ後、外出後の手洗いをお願いし実施している。		全ての感染症予防の理解が出来ていない事もあり、学んでいきたい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食事用エプロンと介護用エプロンを分け、除菌、殺菌を定期的に行い、食材も使いきりにしている。		さらなる徹底を行いたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ユニット玄関には、季節に合った飾りつけを行い、工夫している。中庭には、野菜や花木を植えている。		グループホームだけの菜園を作っていきたい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節毎に飾りつけを行っている。 (外部評価) ホーム内は明るく清潔感があり、利用者はゆったりと過ごしている。職員と利用者が手作りした季節の飾りや、趣味の習字・絵・折鶴などの作品を置き、温かみを感じられる。		入居者と一緒に物作り、飾りつけをしていきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間はフローアであり、雑談の場となっている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使われていた物を持ってきて頂いたり、本人の好きな花を飾ったりしている。 (外部評価) 居室は広く、洗面台も付いている。利用者は思い思いの品を持ち込んでいる。のれんや花、いすやクッションなどで彩りを加え、家族や職員と共に自分らしい部屋を作っている。		より自宅に近い空間作りの配慮をしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 本人と相談し、換気や温度調節も行っている。		入居者本人が、温度変更をしており、外気温との差がひどく、頻回に訪室し調整していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリー設計、手すり設置等安全に配慮し、自立した生活が行えている。		残存機能を活かした生活が送れる様にしたい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人一人に合った声かけ、対応をしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 中庭を職員と一緒に散歩して、四季折々の草花や野菜等を見て楽しまれている。		もっと、ベランダの活用をしたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	一人一人の声を聞き、また、入居者同士の会話にて思いや願いをほぼ把握できている。ただ、あまり話さない人、認知症の進んでいる人の把握はなかなか出来ていない。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	利用者がゆったり過ごされている時間はあるが、職員も一緒に過ごす事は業務多忙にて難しい。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	出来る事は訴えあれば、その都度対応出来ている。その人その人のペースに合わせた支援できているが、重度認知症の方には、ある程度ペースを作っている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	ちょっとした声かけ、あいさつに笑顔で応じられ、食事も「美味しい」と喜ばれている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	希望はあるが、人的環境がいつも整っている訳ではなく、外出は少ない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	医療連携はしっかりと対応出来ているが、入居者は心配される事があり、納得、安心はされていない。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	状況に応じ、その都度対応している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	特に良く来所されるご家族との信頼関係は保てているが、来所回数のご家族の意向は分かりにくい。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	ご家族以外の面会はほとんどない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域から催し物等の紹介があり、徐々に協力を得られている。
98	職員は、生き生きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生き生きと働けるように一生懸命している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	概ね入浴や食事等については満足されているが、「帰宅願望」や「もっと自由にしたい。」と言う希望がある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	不満や苦情に関してはその都度対応し、カンファレンス等で感謝される等、概ね満足されていると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・入居者の方に穏やかに過ごして頂ける様、その方、その方の応じた声かけ、サービスを提供している。
- ・何より雰囲気重視し、温かい家庭の空気を作り出せる様努めている。
- ・笑顔のある生活をして頂ける様、個別ケアを重視している。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム里の家

(ユニット名) のぎく

記入者(管理者)
氏名 岡本 末子

評価完了日 平成 20 年 1 月 7 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) スタッフ一人一人の意見を聞き、それをまとめて理念を作った。グループホーム独自の理念を作り上げている。 (外部評価) ホームは運営理念に「地域社会への奉仕と貢献」を掲げ、地域社会とのつながりを大切にしている。その他、全職員で考えたわかりやすい介護理念と行動指針を日々の介護に役立てている。	※	地区やホーム主催の行事で地域の人々との交流は活発に行われている。介護理念と行動指針は2年前に作られたもので、職員に十分浸透している。さらに地域に根ざしたホームとなるため、地域とのかかわり方を具体化した理念作りを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 管理者以下職員全員で、理念を共有又は常に念頭に置き、実践に向けて日々取り組んでいる。 (外部評価) 理念を廊下、事務所などにはっきりと掲示し、訪問者や職員が意識しやすい。朝の申し送りでも話し合っている。日頃のケアの実践に当たって理念を意識して笑顔や優しさを大事にしている。	※	引き続き日々取り組み、更なる向上を図る。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 定期的な地域の方との会議(運営推進会議)や、年1回の家族会の中で各々に理解して頂く様に努めている。	※	運営推進会議や家族会を大いに活用し、又ホーム便りを地域の方にも配布する等をし、理解して頂く様取り組んでいきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日常的ではないが、行事等を通し、交流に努め、気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけている。又、散歩の時には、近所の人に声かけし、交流を深めようと心がけている。	※	地域の人々に気軽に立ち寄って頂ける様な開放的な雰囲気を作っていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の一人として、町内会の夏祭りやバザーなど、お誘い頂き参加させてもらっている。年々交流が深まっている。 (外部評価) 自治会には入っていないが毎月広報は配られ、そこから地域の情報を得ている。町内の祭りには厨房を提供してバザーのお菓子を作ったり、利用者の書道作品などを出品している。ホームの祭りには町内の人が敷地内で誘導のボランティアをするなど、相互の協力体制ができています。	※	地域密着型を目指し、今後も交流を深めていきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の場で、協力出来る事等説明して実施出来る様取り組みしている。	※	運営推進会議の場にて、地域の人や民生委員の方々と話し合っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 向上する上で、自己・外部評価が必要だと認識している。又評価を明確にし、理解した上で、どうすればより良いケアが出来るかを話し合い、具体的に取り組んでいる。 (外部評価) 前回の外部評価結果を受けて改善に取り組み、ケアの質の向上に努めている。職員は一人ひとり自己評価をシートに記入し、管理者がまとめている。	※	

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議にて、報告は行っている。	※	
			(外部評価) 運営推進会議ではホームの現状や行事の連絡・報告をしている。また、外部評価結果も議題として提出している。地域の方から文化祭の出し物で利用者が楽しめるような踊りのヒントをいただき、職員が練習して発表したところ大変好評であった。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 事業所としていろいろな研修の場等でも顔を合わせ相談にのってもらっている。		
			(外部評価) 市担当者から、行政だけでなく医療機関の情報提供もしてもらっている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会により、成年後見制度についての認識はあるが、直接的な支援をする対象者はいない。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常時、利用者さんに声かけし、変化を見過ごさぬよう心がけている。又、トイレ誘導時や入浴時に体に異常がないか、細心の注意を払っている。又、ユニット会や申し送り時に管理者より指導を受けている。	※	職員同士、情報交換しながら虐待防止に努める。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族、利用者さんを交え十分な話し合い、説明をし理解・納得を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 管理者や現場スタッフには常時言っていており、運営に反映させているが、外部者へ表せる機会は設けていない。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時には、日中の様子、健康状態を報告している。又毎月ホーム便りにて、利用者さんの1ヶ月の状況を家族さんに報告している。又金銭については、毎月便りと一緒に台帳コピーと領収書を送付している。全てにおいて変化時には常時電話にて連絡行っている。 (外部評価) 「ホーム便り」を請求書や金銭出納帳のコピーと共に面会の時や郵送で月1回届けている。便りには利用者の担当者から健康状態の報告や、メッセージが添えられている。	※	
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 管理者や現場スタッフには常時言っていていただき、運営に反映させているが、外部者へ表せる機会は設けていない。 (外部評価) 年1回の家族会議や、介護計画立案時、面会時や電話で意見を聞いている。外部評価後に職員で話し合い、家族からの要望も取り入れて改善方法を検討している。家族からの意見は各ユニットの連絡ノートに記しており、職員は情報を共有している。ホーム内外の苦情相談窓口を明示している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に関し、管理者から職員への説明等は十分に受けているが、スタッフの意見や提案を聞く機会は設けられていない。	※	スタッフ一人一人の意見や提案できる場を設け、スタッフ側の意見も聞いてほしい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) その時の状況変化の必要性に応じ、勤務の調整は可能な限り行っている。	※	より良いケアが出来るよう、増員があれば良いと思う。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動を必要最小限に抑えられてはいないと思う。しかし、やむをえない場合も多い。 (外部評価) 運営法人の各事業所間での異動は最小限に行なわれている。重複勤務等の工夫によって異動による利用者のダメージを少なくするよう配慮している。	※	異動に関し、考え合っている事だと思うが、利用者さんにとって大きなダメージとなるようだ。利用者さんの意見も取り入れると良いと思う。又異動の際は、利用者さんに伝える必要があると思う。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人外の研修に参加させてもらったり、法人内の勉強会の席を設けてもらっている。 (外部評価) 管理者・職員は外部研修を受講した際には報告書を作成し、他の職員にも伝達している。月に1回、同系列の事業所の専門職員による内部研修を行ったり、外部研修の伝達をしている。	※	

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域の同業者と交流する機会はない。	※	サービスの質を向上させていくために、情報交換を行い、同業者との交流する機会があれば良いと思う。
			(外部評価) 同一法人内のホームから職員が来て、見学や情報交換を行っている。管理者は他ホームの管理者と研修などで出会った際に情報を得ている。しかし職員レベルでの他ホームとの交流を通じた向上の機会は少ない。	※	まずは同一法人内のホームとの交流を深めて、更なる質の向上を目指す手がかりとして検討することを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 親睦会などにより、日頃のストレスを軽減する為工夫してもらっている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) いろんな度毎に声かけして前向きに仕事出来る様に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人自身の訴えに耳を傾けられる様努力している。	※	引き続き行っていきたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族の思いをしっかりと受け止める努力をしている。	※	引き続き行っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) その人、その時の本人に合った対応をいろんな観点から考慮、判断しサービスを開始するよう工夫している。	※	
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族さんとよく相談し、納得していただいた上でサービスを開始するよう工夫している。 (外部評価) 病院から入居の場合、医師等とも連絡を取り合っている。自宅から入居の場合はケアマネジャーと相談し、見学も随時受け入れている。運営法人の居宅系の各サービスや介護老人保健施設からの入居の場合は職員とも顔なじみであり、利用者もホームに馴染みやすい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一緒に生活していく中で、共通の話題を作り、心の繋がりを築ける様努力している。又、色々な事を教わり、支え合う関係を築くよう努力している。 (外部評価) 職員は利用者の育った環境や暮らしぶり、方言、町の様子等を教えてもらうことが多く、共に季節の飾りを手作りするなどでも楽しんでいる。職員は、利用者としてしっかり対面して話すよう心がけており、一人ひとりの考え方や生き方に学ぶところが多いと感じている。	※	もう少しゆっくりした時間を持ち、もっと心の繋がりを強くしていきたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族さんの意見・希望を聞いた上でご本人にとって何が一番ベストなのか相談し、一緒に本人を支えていっている。	※	

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族関係を把握した上で、入りすぎぬよう配慮し、双方の希望や話に耳を傾け、良い関係が築いていけるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族さん以外の交流に関して、気楽に来て頂ける様支援に努めている。	※	一人一人の馴染みの人や場所を本人もしくは家族さんに確認し、支援していきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者さん同士の関係を把握し、孤立する人が出ないように、職員が仲介に入り、皆が関わり合えるよう努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 必要とする利用者さんや家族さんには、関係を断ち切らぬよう大切にしている。イベント時等、何年経っても来られている方もおられる。	※	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意志を尊重し、把握した上で、ケアを行っている。又、意志確認出来ない人には、本人さんの立場に立って、何を求めているか考えてケアを行うようにしている。 (外部評価) 利用者からイベントやおやつ作りなど楽しかった行事へのリクエストの申し出が多く、職員は意向に沿うよう努めている。職員は朝・夕に居室を訪れ、利用者の思いの把握に努めている。	※	

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フェースシート、サマリーをチェックしたり、本人・家族さんから情報を得て、把握に努めている。	※	
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 各々の1日のペース、行動が状況、心身状態を把握し、職員との情報交換を密に取り、日々の変化にも対応できている。	※	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者・家族さんにカンファレンスに参加していただき、意見・要望も組み込んだ上で介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者ごとに担当職員を決めている。介護計画は利用者・家族・管理者・職員が出席した席で計画を立てている。状態の安定している利用者には趣味のプランを多くしている。	※	
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月に1回カンファレンスを行っているが、必要時には即対応し開催している。現状に即した計画が立てられている。 (外部評価) 介護計画の評価は週1回及び1か月に1回行っている。状態が変化した場合はその都度見直している。その際には家族等とも相談している。状態が変化しなくても3か月ごとに見直している。	※	

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々、ケース記録、介護日誌に記入し、職員に報告、連絡を行って実践や介護計画の見直しに生かしている。	※	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人や家族の状況、様々な場面で希望、要望に応じてそれに合った支援をしている。 (外部評価) 受診は緊急の場合は職員が付き添う。家族からはリハビリテーションの希望が多く、広いホーム内や、多種類のリハビリ機具を用いて、職員や作業療法士らが対応している。希望により居室での家族等の宿泊も可能となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 本人からの意向や要望は今だかつて無いが、職員サイドの判断により、行事の際はボランティア、年1回程度、消防の協力を得て支援している。又、校区内の中学生の体験学習を受け入れている。(教育)		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の意向があれば、前向きに他のサービス事業者とも連絡とっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 今までの所、本人からの意向や必要性は出ていない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望を尊重した上で、それぞれの協力医院の確保ができ、適切な医療を受ける事が出来ている。 (外部評価) かかりつけ医以外にも、運営法人医療機関の往診や介護老人保健施設の看護師らの協力により、医療面の支援が行われている。受診結果は家族に電話等で連絡し、個人ファイルの受診結果報告書に記入している。	※	
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 各々、専門医がおり、スタッフが相談したり、治療が受けられるよう支援している。	※	
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 2階にナースが常勤している為、問題なく相談が出来、健康管理や医療活用の支援が出来ている。	※	
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院先の医師と情報交換、相談している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 本人、家族、管理者、職員と十分に話し合い、全員で方針を共有している。 (外部評価) 入居時に重度化や終末期の看取りについて説明している。介護計画を立てる際にも家族の意向等を確認しながらケアにあたっている。	※	

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度や終末期の利用者が、毎日を気持ち良く過ごしていただく為に、出来る事、出来ない事ははっきりさせ、専門医、ナース（2階）と共に情報交換をしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 十分な話し合い、情報交換を行うが、本人さん自身のダメージを防げているかどうかはわからない。	※	アフターケアも大切にしていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシー保護に努め、言葉かけや対応に十分注意している。又、個人情報の取り扱いもロッカーに入れ、厳重保管している。 (外部評価) 職員はケアにあたる際には「失礼します」と告げ、利用者は「ありがとう」と答えている。穏やかに接する中に年長者を敬う姿勢が見られる。書類等は各ユニットの事務室で適切に保管している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人の思いや希望を引き出したり、意志を尊重し、本人に決めていただく工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の都合を優先する事は無い。しかし、他の利用者の対応を優先し、待つて頂く事がある。 (外部評価) 外出やリハビリテーションの希望にすぐ対応できない場合は待つていただくこともあるが、職員は利用者一人ひとりの思いに耳を傾け、できる限り要望に沿えるよう努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理容、美容は本人の希望に沿って行えている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に準備や食事は出来ないが、声かけをしたり、場が楽しくなるよう心がけている。又、片付けは一緒に行つており、楽しくしている。 (外部評価) 職員は食事介助に集中したいとの思いから利用者と一緒に食事をしていないが、準備や片付けは利用者と共にしている。各ユニットでご飯と汁物は作っているが、他の副食は同じ建物内で一括調理したものが届けられる。月に一度、共に食事やおやつを作る日を設けて利用者に喜ばれている。	※	
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 各々の状況に応じて出来る限り希望に沿った対応ができています。	※	

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 各々の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄していただける様声かけ、誘導等して支援できている。又、時々失禁がある場合もさりげなく交換を行っている。	※	
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴の曜日・時間はほぼ決まっているが、順番や希望を聞いて応えるようにしている。又、入浴を楽しめるようにお話ししたり、ラジオをつけたりしている。 (外部評価) 各ユニットごとに広い脱衣所と浴室がある。利用する曜日や時間帯はほぼ決まっている。シャワー浴や機械浴を利用した入浴や、特殊浴槽を利用した居室での入浴にも対応が可能となっている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間不眠時には、お話をしたり、水分摂取して頂いたり気持ちの安定を図っている。安眠できるよう支援している。	※	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 趣味を生かし、書道をされたり、折り紙をされたり、日記を書かれたり、役割・楽しみ事を見つけ、その人らしい暮らしができるよう支援している。 (外部評価) 洗濯物たたみや食器拭きなど日常の生活でできることをすることが利用者の楽しみになっている。利用者の作ったカレンダーや習字、折鶴などを文化祭で展示したり居室に飾っている。人に見てもらおう楽しさを利用者に味わってもらおうことが、制作の励みにもなっている。	※	

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族さんより、小口預りをユニット内で管理し、必要に応じて本人さんにお渡ししたりしている。又、金銭の管理が出来る方には個人の財布を所持して頂いている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 家族さんとの相談の上ではあるが、了解の下、一人で希望される所へ外出されている。一人で行けない方は、職員同行のもと行っている。 (外部評価) 買い物希望は多く、スーパーやコンビニ、ホーム近くの無人野菜売り場などで買い物を楽しんでいる。建物を一周するベランダや敷地内の庭を利用し、気軽な外出や散歩も行っている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 個別で行かれる事はないが、利用者の要望を確認し、お花見やドライブ、食事など外出の機会を作っている。	※	もっと外出の機会を作っていきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば電話を使用している。手紙は、1階事務所より発送が出来る体制が整っている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時には居心地良く居ていただく為に、声かけしたり居室に椅子をお持ちしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束しないケアに取り組んでいる。	※	介護保険法指定基準における禁止の対象となる行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室や玄関は施錠せず、開放的である。 (外部評価) 現在、ホームの玄関になるエレベーターにロックがかかっているが、建物の設備上、ホーム入口だけ開錠することは不可能である。しかし、開錠の仕方は利用者に伝えており、自由に出入りできる状態である。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 本人のペースを乱さないよう、且つプライバシー保護に努めつつ、昼夜を通じ安全に生活を送っていただける様配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 各々の状況に応じて危険な物を使用する際は、一緒に使用したり、見守りを行い、制止せず使用していただいている。又保管管理を行い事故防止に努めている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 勉強会や消防訓練等を行い、正しい知識を学び、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的な訓練は行っていない。マニュアルがあり、全職員一読はしている。	※	急変や自己に備え、応急手当や初期対応の訓練を実施し、すべてのスタッフができるようにしておきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回、防災訓練を行い、マニュアルも作成されている。地域の方々の協力も得られるように働きかけている。 (外部評価) 3階建て施設の各階ごとに防火管理者の資格を有する職員がいる。年2回地元の消防署と共に昼・夜想定訓練を併設施設と合同で行っている。運営推進会議でも地域の方々と防災について話し合っている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 面会時には状況報告し、そこで起こり得るリスクがある場合は、家族に説明・話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝のバイタルチェックは必ず行い、入浴トイレ時には皮膚観察又は、本人に体調確認を行い、情報を共有・対応し、記録に残している。	※	
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明を確認し、目的・副作用・用法・用量についてある程度、理解できている。	※	新しく処方された薬は、都度、説明をもらう。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取を勧めたり、散歩の声かけを行い、予防に努めている。又、便秘時にはセンナ茶を飲んでいただいたり便秘薬にて対応。それでもダメな場合は看護師に依頼し、排便、浣腸してもらっている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 自分で口腔ケアされる方は見守り行き、その他の方は、介助にて口腔ケアを行っている。各々に応じた支援を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスは管理栄養士が行っており、必要時には栄養士に相談している。摂取量、水分量はチェックし、各々の状態に応じた支援をしている。 (外部評価) 管理栄養士が献立をたてている。食事及び水分摂取量は1日の生活記録に書き、個人ファイルに転記している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 勉強会にて、予防法、対応法を習得し、実行している。マニュアルも作成されている。	※	
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理用具の消毒を行い、衛生管理を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関は花を飾ったり、季節感のある物を置き、親しみ易く安心して出入りできるよう工夫をしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 花や季節感のある装飾をし、四季を感じていただけるように工夫している。 (外部評価) ホーム内は明るく清潔感があり、利用者はゆったりと過ごしている。職員と利用者が手作りした季節の飾りや、趣味の習字・絵・折鶴などの作品を置き、温かみを感じられる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間の一角にソファ・テーブルを置き、思い思いに過ごせるような居場所作りをしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ダンス、ベット以外は、各々私物を持って来られている方もいるが、持ち込んでいただいていない方もいる。 (外部評価) 居室は広く、洗面台も付いている。利用者は思い思いの品を持ち込んでいる。のれんや花、いすやクッションなどで彩りを加え、家族や職員と共に自分らしい部屋を作っている。	※	居室は生活する上で安全で安らぎが必要な場所なので、本人・家族と相談しながら心地よく過ごせる場の提供をしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 温度調整はできているが、特に冬場の換気が出来ていない。	※	利用者さんに確認を取りながら、換気を行っていききたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内部の手すりの高さや洗面台の高さ、鏡の位置等一緒であり、各々の身体機能を活かせていない部分もある。	※	その人に合った鏡の位置の調整、洗面台の調整が出来れば良い。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 残存機能が衰えないように、出来る事はして頂くよう声かけを行っている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダを一周できるスペースもあり、敷地内に畑があり、自然に親しむ事ができる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の思いや望んでいる事を汲み取り、その人にとってベストなケアを考え支援している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	業務の合間にコミュニケーションを取るように心がけている。一緒にテレビを観たり、作業をしたり、お話している。業務時間内に無理な場合は後に少しでも時間を設けている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	各々のペース、時間を大切にし、なるべくペースを乱さないよう支援をしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	特にコミュニケーションを取っている時が生き生きとした表情が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	家族さんとの外出は行きたい所だと思うが、施設からの外出は、本当に行きたい所ではないと言う人もいる。又身体状況等により、行きたくても行けない場所の方が多い。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	2階に看護師が常勤している事、又医師による回診、受診により安心感を持たれている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんの声に耳を傾け、その人らしい暮らしを大切にすることによって安心して頂いていると思う。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	とにかくこちらから声かけし、職員に対する要望や利用者さんに対する心配事など聞いている。又、ベストとなるケアを一緒に考える事によって、信頼関係ができ、保っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) 3 たまに ④ ほとんどない	家族や親類の方は訪ねてきているが、馴染みの人や地域の人々が訪ねて来られる事はほとんどない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域のイベントに参加させていただく事によって、交流が深まり、応援、理解していただける方が増えたと思う。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	どんどん笑顔が増えていっている。利用者さんとの関わりを大切にしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	「良くしてくれる」「言う事ない」という利用者からの声がある。現在、利用者さんと職員との関係がとても良い雰囲気。安定している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族さんから「良くしてもらっている。」と言ってもらえる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

毎日を安心して安らぐ生活を送っていただく為、季節に応じた環境作りに力を入れたり、各々のペースに合わせて、その人らしい暮らしが出来るように取り組んでいる。又、イベントに力をいれている。